

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 田野浦 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っていたが、手紙の構成を理解し、後付けを書く等書くことについては、基礎ができていた。</li> <li>・言語知識理解と話す・聞く力を問う問題に課題があり、漢字練習の習慣化と話し合い活動を多く設定する必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、必要な情報を見付けて読む、漢字を正しく読む問題の正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句の情景を捉える、学年別配当漢字を正しく書く問題の正答率が低かった。</li> </ul>

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率をわずかに下回っていた。書くことについては、正答率が高い。</li> <li>・適切な言葉遣いで話す問題に課題があるので、表現する場を多く設定し、話型を身に付け、一人一人が話す機会を増やす必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて文章全体の構成を考える、目的や意図に応じて引用して書く問題について、正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話す問題の正答率が低かった。</li> </ul>

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率をやや上回った。小数の乗法、加法と乗法の混合した計算の問題の正答率が高く、数と計算の基礎ができていた。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な問題場面において、乗法で表す、小数の乗法の計算をする、最小公倍数の問題についての正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の乗法の計算する、二次元表に分類整理するの問題についての正答率が低かった。</li> </ul>

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率をわずかだが、上回ることができた。応用問題に対して、最後まで粘り強く取り組むことができるようになった。</li> <li>・量と測定や数量についての知識・理解が深まり、正答率が高い。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を基に、適切な式を立てることができる、資料から必要な数値を選び、求め方と答えを記述する問題については、正答率が高い。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量と割合を基に比較量を判断し、その理由を記述する問題については正答率が低かった。</li> <li>・二つの数量の関係を一般化して捉え、そのまわりを記述する問題については、正答率が高いが、無回答が多かった。</li> </ul>

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での生活面や学習面を振り返る「田野浦っ子ががんばりカード」の取組により、「自分で計画立てて勉強をしている。」「宿題をしている。」児童の割合が全国に比べ高く、学習習慣が身に付いている。また、テレビやスマホ等、メディア接触の時間が減少した。</li> <li>・学校での学習活動では、友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深める児童の割合が全国に比べ低かった。今後、1時間の授業の中で友達同士で話し合ったり、意見を交換したりする活動を学習の中に多く設定していくようにする。また、学級会や児童会活動等、児童が自主的、実践的な活動を行うなかでも、話し合い活動の充実を図っていくようにする。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝自習」では、既習内容を学習する。また、午後の「田野浦タイム」では、現学年の内容を学習する。学習内容については、担任、少人数指導教員等が指導を行い、基礎的・基本的内容の定着を図る。他にも、新たに漢字検定の取組を全校で行う。</li> <li>・特に本校では、算数科を中心とした授業改善を行っているので、さらに研究を深める。学習指導方法について、学力向上推進教員と連携しながら、教材研究を行い、指導技術の向上を図る。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「田野浦っ子ががんばりカード」の取組を継続し、担任が指導の徹底を継続して行い、校長、教頭、教務主任もチェックを行い、称賛する。また、学校通信、学級通信などで児童の頑張りについて、家庭への啓発、基本的な生活習慣と家庭学習の定着を図る。</li> <li>・児童の学習課題に沿った宿題や家庭学習をさせる工夫、よくがんばっているノートの提示等を行い、自学への意欲を高める。</li> </ul>
--